

文化人類学コース

|| 岩本 通弥

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

・「生活・日常・世相——変化を捉えるために」『日常と文化』5号、2018、1-8頁

(3) 学会、研究会発表

・「日本の生活改善運動と民俗学——モダニゼーションと〈日常〉研究」第38次実践民俗学会学術大会2018年2月2日、韓国ソウル・東國大学校

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

民族文化論 (Sセメスター)、歴史と文化 (Aセメスター)

(2) 後期課程担当科目

民俗学 (Sセメスター)、日本文化研究Ⅱ (Aセメスター)

(3) 大学院担当科目

文化認識論Ⅱ (Sセメスター)、民族社会論Ⅰ (Aセメスター)

3. 学内行政業務

超域文化科学紀要委員、グローバル地域研究機構運営委員

|| 藏本 龍介

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

・KURAMOTO, Ryosuke 2018 Monks' Lives Shaped by Food: A Case Study in Myanmar. *Religious Studies in Japan* 4: 47-64。

(3) 学会、研究会発表

・藏本龍介「律遵守の僧院をつくる：ミャンマー・「森の僧院」の挑戦」、『宗教と社会』学会、2017年6月4日、大阪国際大学。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・藏本龍介2018「書評 矢野秀武『国家と上座仏教：タイの政教関係』」『東南アジア研究』55(2) 402-405 2018年1月

2. 教育実績

(2) 後期課程担当科目

文化人類学特殊講義 (宗教と経済の関係)、文化人類学特殊演習 (アジアの宗教と社会)

(3) 大学院担当科目

文化現象論、文化人類学演習Ⅱ、超域文化科学演習Ⅰ

||| 関谷 雄一

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
2. 編著
 - ・『東大塾 社会人のための現代アフリカ講義』, 遠藤貢と共編, 東京大学出版会, 2017
- (3) 学会、研究会発表
研究会発表
 - ・「福島原発事故被災当事者との協働研究—その創造性と課題—」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催『海外学術調査フォーラム ワークショップ フィールドサイエンスにおけるドキュメンテーション—あつめる・はかる・かぞえる—』(2017年7月1日実施)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
[Sセメスター]「初年次ゼミナール文科」「文化人類学 I」
- (2) 後期課程担当科目
[Aセメスター]「応用人類学 I & 専門英語 (1) 合併」
- (3) 大学院担当科目
[Sセメスター]「開発と文化 I & 生存とライフスキル I 合併」「人間の安全保障実験実習 I & メディア・コミュニティ・ネットワーク I 合併」「人間の安全保障実験実習 II」
[Aセメスター]「人間の安全保障演習 IV」「文化人類学演習 III & 国際協力論実験実習 II 合併」「人間の安全保障実験実習 II & メディア・コミュニティ・ネットワーク I 合併」
「人間の安全保障実験実習 I」
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
東京外国語大学 国際社会学部 国際地域論 A、成蹊大学 文学部 民族誌

3. 学内行政業務

「人間の安全保障」プログラム運営委員 (教務担当)、グローバル地域研究機構 持続的開発研究センター長、後期課程 文化人類学コース主任

||| 田辺 明生

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
 1. 単著
 - ・2018年 “Spirituality as the Source of Human Creativity: Insights from India.” In *The Kyoto Manifesto for Global Economics: The Platform of Community, Humanity, and Spirituality*, edited by Stomu Yamash'ta, Tadashi Yagi and Stephen Hill, 179-193. Singapore: Springer.
 - ・2018年「幸福追求の支えとしてのダルマ——秩序の再構築過程に注目して」嵩満也編 『変貌と伝統の現代インド——アンベードカルと再定義されるダルマ』法蔵館 255-276頁
 - ・2017年 “Conditions of ‘Developmental Democracy: New Logic of Inclusion and Exclusion in Globalizing India’”, Minoru Mio, Abhijit Dasgupta eds, *Rethinking Social Exclusion in India: Castes, Communities and the State*. London: Routledge, pp. 11-29.

(3) 学会、研究会発表

- ・ Akio Tanabe “Anti-Racism and Spiritual Universalism: Connection and Diversion of Transnational Nationalisms of Japan and India in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries” at International Seminar on Race and Racism, at École des Hautes Études en Sciences Sociales, Paris, 12-13 March 2018.
- ・ Akio Tanabe “Is there a South Asian Path of Development? Comparative Attempts on Shapes of Asia” Invited presentation at “Shaping Asia/s Connectivities, Comparisons, Collaborations” Workshop at the Centre for Interdisciplinary Research, Bielefeld University, Germany, 6-7 February 2018.
- ・ Akio Tanabe “Forms of Racialization in Odisha, India: Projecting Anxieties of Globalization onto the Marginalized” 116th Annual Meeting of American Anthropological Association, Marriot Wardman Park Hotel, Washington D.C., 2nd December 2017.
- ・ Akio Tanabe “Genealogies of ‘Paika Rebellion’: Heterogeneities and Linkages” Invited Key Speaker at National History Symposium “Paika Rebellion: A Forgotten Era of Indian Freedom Struggle”, 21-22 October 2017, India International Centre, New Delhi
- ・ Akio Tanabe “Vernacular Democracy and Politics of Relationships: A Subalternate Perspective on Contemporary India”, Department of Political Science, University of Calcutta, 5th September 2017.
- ・ Akio Tanabe “Locating Odisha and Japan in the World” Invited Chief Speaker at University Seminar, Utkal University, Bhubaneswar, Odisha, India, 3rd August 2017.

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
文化人類学 I
- (2) 後期課程担当科目
社会人類学理論 II、フィールド演習、文化人類学特殊講義(民族誌作成)、歴史と文化 II
- (3) 大学院担当科目
文化構造論 I、文化人類学演習 I、地域文化研究特殊研究 III

3. 学内行政業務

文化人類学コース副主任、GSP 委員、進学情報センター運営委員会

||| 津田 浩司

1. 研究・研究成果の公刊

- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
 - ・ 華僑華人の事典編集委員会(編)(2017)『華僑華人の事典』, 丸善出版, 630 pp.(編集委員長: 吉原和男, 編集幹事: 芹澤知広・津田浩司, 編集委員: 王雪萍・杉村美紀・瀬川昌久・曾士才・谷垣真理子・三尾裕子・山本須美子)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
「現代文化人類学」(Sセメスター)
- (2) 後期課程担当科目
「文化人類学特殊講義(共同性の人類学)」(Sセメスター) ※超域文化科学高度教養科目合併,

「文化人類学基礎演習」(Aセメスター)

(3) 大学院担当科目

「文化構造論Ⅱ」(Sセメスター)、「文化人類学演習Ⅰ」(Aセメスター)

3. 学内行政業務

TA委員会、総合研究博物館 運営委員会委員(「文化人類」部門主任)

||| 名和 克郎

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

・ Nawa, Katsuo 2018 Effects of Translation on the Invisible Power Wielded by Language in the Legal Sphere: The Case of Nepal. In Janny H. C. Leung and Alan Durant (eds.), *Meaning and Power in the Language of Law*, pp. 95-117. Cambridge University Press.

(3) 学会、研究会発表

・ Nawa, Katsuo. "Migration and the Changing nature of multilingualism among the people of Byans, Far Western Nepal and adjacent regions." Presented at the *CASCA/IUAES 2017 Conference in Ottawa: Mo(u)vement*, University of Ottawa, May 4 2017.

・ 名和克郎「ネパールのランにおける毛織物をめぐる実践と表象の展開——「伝統服」と絨毯を例として」日本文化人類学会第51回研究大会 神戸大学鶴甲第一キャンパス 2017年5月27日.

・ 名和克郎「極西部ネパール、ジャングルの村人に対する学校教育の影響 c. 1925～2015」南アジア研究センター設立記念シンポジウム「南アジアの社会経済発展の基盤——教育・市場・国家」東京大学駒場キャンパス 2017年6月4日.

・ Nawa, Katsuo. "There Are No Servants among Us?: Livelihood, Work, and Being Independent among Rangs from Byans, Far Western Nepal." Presented at the *International Conference "Work, Identity and Livelihood in Nepal: Theoretical challenges and contemporary practices for South Asia"*, South Asian University, Akbar Bhawan, New Delhi, July 22 2017.

・ Nawa, Katsuo. "Changing Discourse on Religion/Dharma among the Rangs of Byans, Far Western Nepal." Presented at the *Thursday Seminar*, School of Arts, Kathmandu University, Lalitpur, August 3 2017.

・ Nawa, Katsuo. "On the 'Drum Music' in Byans and Adjacent Regions: Performances, Aesthetics, and Boundaries." Presented at the *5th ANHS Himalayan Studies Conference*, University of Colorado Boulder, September 2 2017.

・ Nawa, Katsuo. "'Citizenship', 'Religion', Patrilineality, and Imagined Communities in Contemporary Nepal: Comparing the Early Panchayat and Post-'Conflict' Periods." Presented at the *Critical Nationalism Studies Workshop: National Imaginaries and Beyond*, Durham University, September 14 2017.

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・ 名和克郎 2016「書評 三尾稔・杉本良男 編『現代インド6 環流する文化と宗教』『南アジア研究』28: 135-142.(実際の刊行は2018年)

・ 名和克郎 2018「ネパールの国民・民族・言語」インド文化事典編集委員会 編『インド文

化事典』, p. 155. 丸善出版.

- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
・ Interdisciplinary Dialogue “What is Modernity?: Interdisciplinary Perspectives on a Contested Concept” Universität Bielefeld, Graduate School in History and Sociology, Bielefeld, 17 January 2018 (第1話者として参加)

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初年次ゼミナール文科
- (2) 後期課程担当科目
文化人類学理論II、地域民族誌I、超域文化科学高度教養(人類学的集団範疇論—民族とカーストを中心に)
- (3) 大学院担当科目
社会構造論、比較民族誌演習II
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
アジアの民族(地域文化科学専攻)、Ethnic Group, Caste and Nation: Anthropological Perspectives (Fakultät für Soziologie, Universität Bielefeld. 大学院集中講義)

||| 福島 真人

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
1. 単著
・ 福島真人 2018『真理の工場——科学技術の社会的研究』東京大学出版会
- (2) 論文
1. 単著
・ Masato Fukushima 2017 The Experimental Zone of Learning: Mapping the Dynamics of Everyday Experiment, *Mind, Culture and Activity*, 24(4): 311-323.
・ Masato Fukushima 2017 Sick Bodies and the Political Body: The Political Theology of Apichatpong Weerasethakul’s Cemetery of Splendor, in *Two or Three Tigers* (Haus der Kulturen der Welt, HKW, Berlin).
- (3) 学会、研究会発表
・ Masato Fukushima, 2017 Enduring spell of tacit knowing?: Data science and its discontents in the managerial and policy landscape of Japan, Paper presented at the session, “The Domains of data science: Science, industry& state”, the 4S conference in Boston, the US.

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初年次ゼミ、人文科学ゼミ(文化人類学)
- (2) 後期課程担当科目
文化人類学演習、文化人類学特殊演習(テクノロジーと社会)
- (3) 大学院担当科目
応用人類学II、文化認識論I

3. 学内行政業務

文化人類学前期部会主任、図書委員

|| 宮地 隆廣

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

- ・宮地隆廣「ラテンアメリカの先住民運動」後藤政子・山崎圭一編『ラテンアメリカはどこへ行く』ミネルヴァ書房, pp. 74-94, 2017年5月.
- ・宮地隆廣「『失敗』したプロジェクトのその後——ボリビア農村部の貯水池建設」「再び、援助とともに生きる」青山和佳・受田宏之・小林誉明編『開発援助がつくる社会生活——現場からのプロジェクト診断』第2版, 大学教育出版, pp. 182-207, 2017年12月.

(2) 論文

1. 単著

- ・Miyachi, Takahiro. 2018. “Referendo de iniciativa gubernamental y calidad de la democracia en América Latina”. *De política* (Asociación Mexicana de Ciencias Políticas) no. 9, pp. 49-68.

(3) 学会、研究会発表

- ・Miyachi, Takahiro. “¿Instrumento para quién? Referendo de iniciativa gubernamental y calidad de la democracia en América Latina”. 第38回日本ラテンアメリカ学会, 東京大学, 2017年6月4日.
- ・Miyachi, Takahiro. “Japan and the Asia-Latin American connection in the 21st century.” 9o Congreso de la Asociación Latinoamericana de Ciencia Política, Universidad Católica de Uruguay, Montevideo, 2017年7月28日.
- ・Miyachi, Takahiro. “Building Up a Latin American studies network in East Asia.” International Forum “East Asian Partners Dialogue on Latin American studies.” China Academy of Social Sciences, Guangzhou, 2017年11月17日.
- ・宮地隆廣「トランスナショナルな社会運動の隘路:ラテンアメリカ先住民運動を事例に」文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)「グローバル関係学」若手研究者報告会、早稲田大学、2018年2月4日.

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・受田宏之・宮地隆廣. 2017. 「メキシコの麻薬戦争と民衆歌謡——ナルコロードから社会規範を読み解く」『アジア研ワールド・トレンド』7月号, pp. 2-7.

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・宮地隆廣. 2018. ラテンアメリカに関する項目. 新村出編『広辞苑』第7版, 岩波書店.

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

「スペイン語一列」「スペイン語二列」

(2) 後期課程担当科目

「文化人類学特殊講義(ラテンアメリカの市民社会論)」「特殊研究演習I [ラテンアメリカ研究コース]」「特殊研究演習II [ラテンアメリカ研究コース]」

- (3) 大学院担当科目
「文明と地域社会I」「文明と地域社会II」「北米・中南米地域文化演習III」
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
学習院大学 法学部「地域研究(ラテン・アメリカI)」「地域研究(ラテン・アメリカII)」
東京外国語大学 国際社会学部「アメリカ地域研究A」「アメリカ地域研究B」

3. 学内行政業務

総合研究棟管理委員

||| 箭内 匡

1. 研究・研究成果の公刊

- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
・ 箭内匡「印象人類学的理論素描——民族志影像下の“科学”与“藝術”(郭海紅訳)『民族藝術』2017年第3期 総第136期 105-112頁[日本語既刊論文(2008)の中国語訳]

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
文化人類学II
- (2) 後期課程担当科目
卒業論文演習、文化人類学特殊講義(卒論演習)、文化人類学理論III、文化人類学特殊演習(イメージの人類学)
- (3) 大学院担当科目
文化構造論II、文化人類学演習II、文化人類学実験実習II

3. 学内行政業務

文化人類学コース主任

||| 渡邊 日日

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
 - 1. 単著
・ 2017「シベリア先住民にとってのロシア革命」『月刊みんぱく』12月号、5頁。
- (3) 学会、研究会発表
・ 2018 Commentary on Ecological-Environmental Anthropology of Northeast Asia, International Symposium “New Trends of Ecological-Environmental Anthropology of Northeast Asia,” Sendai: Tohoku University, March 9.
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
・ 「ロシアの大地に羽ばたく」『教養学部報』第593[2017年6月1日]号、3頁。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
ロシア語関連科目
- (2) 後期課程担当科目
文化人類学理論I／超域文化科学高度教養、文化人類学特殊演習a(ロシア民族学史)／ロシア東欧政治社会特殊演習a

(3) 大学院担当科目

民族社会論 II、文化人類学演習 II、文化人類学演習 III

3. 学内行政業務

前期 TLP 委員会委員長、ロシア語部会図書委員